

卒業式に向けて

副校長 堀越 貴美子

梅の花が満開となり、三寒四温を繰り返しながら、季節はゆっくりと春へ向かっています。1年のまとめのこの時期は、これまでの学習の成果が形となり、子供たちの成長を特に実感できる頃です。学級のまとまりも深まり、友達との関わりがこれまで以上に豊かになり、仲間を意識した活動にも広がりが見られます。来週から始まる個人面談では、この1年間のお子さんの歩みについて、ぜひ担任とともに振り返っていただければと思います。

さて、先日ミラノ・コルティナ2026冬季オリンピックが閉幕し、世界の一流アスリートたちが見せてくれた数々の名場面に、心を動かされた方も多いのではないでしょうか。仲間と挑み、困難を越え、最後の瞬間まであきらめない姿は、スポーツの粋を超えて私達に大きな勇気と感動を届けてくれました。

その光景は、この1年間、子供たちが日々の学習や活動で積み重ねてきた「小さな一歩」「大きな一歩」と重なるものがあります。できなかったことができるようになった瞬間、友達と力を合わせて課題に取り組んだ経験、自分の役割を果たそうと努力した姿。それらすべてが、まるで選手たちの輝きのように、確かな自信として子供たちの中に息づいています。

そして来週からはよいよ3月。卒業の季節を迎えます。卒業式に向けた練習も始まり、証書の受けとり方や動きなどを丁寧に確認しながら、子供たちは新たなステージへの思いを胸に日々取り組んでいます。不安と期待が入り混じるこの時期、その気持ちをしっかり受け止め、子供たちがオリンピックのフィナーレのように、誇りと感動に満ちた表情で卒業の日を迎えられるよう、教職員一同支えてまいります。

世界が感動したオリンピックの余韻とともに、子供たちが歩んできた日々の軌跡を大切に心に刻みながら、輝かしい卒業の季節を迎えたいと思います。

視覚障害教育部門 寄宿舎の交流活動について 寄宿舎担当 田村 嘉恵

寄宿舎では毎年、「寄宿舎を知ってもらうこと」「人との関わりを広げる機会とすること」を目的として、他校の児童・生徒と交流会を行っています。今年度は、11月に聖心女子学院、1月に國學院大學久我山中学高等学校の2校と行いました。

お互いの学校にちなんだクイズや、持ってきてくれた手作りの楽器でリズムをとりながら一緒に歌を楽しんだり、箱の中に手を入れて中に入っているものを当てるゲームをしたりしました。両校とも、初対面でもみんなと一緒に楽しめる企画を用意してくれて、楽しいひと時を過ごすことができました。



♪ 手作り楽器 ♪

知的障害教育部門 小学部4年 交流教育 教諭 阿部 直樹

1月26日(月)に、世田谷区立池之上小学校4年生と本校小学部4年生の交流会を行いました。今回は一緒に楽しめる活動として、ボッチャとボール運びリレーに取り組みました。初めは緊張した様子も見られましたが、競技が始まるとすぐに温かな雰囲気になりました。

ボッチャでは、ボールの行方を見守りながら「ナイスボール」「いいね」と自然に声を掛け合う姿が多く見られました。思いどおりに転がらなくても、友達からの励ましの言葉を受けて、次の一投への意欲につながっていました。ボール運びリレーでは、ペアの友達とタイミングを合わせて走り、ゴール後にはハイタッチをする姿が印象的でした。また、友達を応援する声や拍手、笑顔が広がりました。

交流会の終わりには、「楽しかった」「また一緒にやりたい」という声が聞かれました。活動を通して、言葉だけでなく表情やしぐさでも気持ちが伝わる嬉しさを感じているようでした。